

磐田市水泳協会

構成人数 約70名

設 立 昭和59年5月25日

現 役 員 会 長 川島 文雄 副理事長 鈴木 猛
副会長 杉山 悟 事務局長 寺田 良博
理事長 大塚 安孝

【活動内容等】

本会の平成11年以前の変遷については、体協50周年記念史に掲載してあります。

会長は、大杉信孝が平成11年3月まで務め、2代目は川島文雄で現在に至っています。

市町村体協の合併に伴い、平成18年5月に竜洋町水泳部と合併しました。

主な事業は、小学生水泳教室、小中学生水球教室、水泳大会の開催で、その実績については以下のとおりです。

(1) 夏季小中学生水球教室

毎年6月中旬から9月中旬にかけて、磐田南高校等で開催しており、参加者は、磐田市内外から30人～50人を集めています。

指導員は南高校の出身者が務めていますが、教室開催中にも、高校生が隣で練習をしているため、良い見本と刺激になっています。

水球教室の参加者が数人、南高校の水泳部に入部しています。

(2) 冬季小中学生水球教室

毎年11月中旬から3月中旬までの期間、福田屋内スポーツセンタープールで開催していましたが、平成20年度から会場の営業上の都合から磐田カルチャーSCに移しました。

参加者は30～40人程度で、教室参加者でチームを編成し、ジュニアオリンピックにも出場したこともあります。



平成15年1月冬季水球教室

(3) 小学生水泳教室（磐田地区）

毎年8月のお盆の時期に4日間開催しており、参加者は80～90人程度です。

会場は諸事情から、平成11年～13年が南部中学、平成14年～17年が中部小学校、平成18年から市民プールで開催しています。



平成20年8月教室 前組

(4) 小学生水泳教室（竜洋地区）

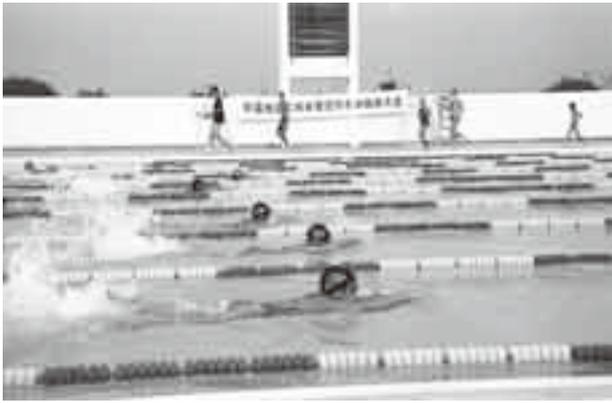
年度	開催期日	会 場	参加者
平18	7 / 6 ~ 7 / 22	B&G海洋センター	37人
平19	7 / 5 ~ 7 / 21	〃	62人

竜洋地区の水泳教室は、平成19年で事業廃止となりました。

(5) 中遠地区広域兼磐田市水泳競技大会

この水泳大会は、市民プールが広域施設として建設された経緯から、市民プールを会場に、昭和59年から実行委員会形式で開催し、水泳協会が主管しています。

毎年300～380人の参加者を集めており、平成16年には第20回を記念した記念行事を開催しました。



平成16年 第20回記念大会のピート板レース

【平成11年～20年の特筆すべきできごと】

(1) 競泳

ア 中学・高校の水泳部

天竜川東では、小、中学生の全国レベルの選手は少ないのですが、高校では磐田農高が昔から抜きん出ています。

紙面の都合からその成績の紹介を省きますが、平成11年から20年の間にも、毎年高校総体や国体で入賞し、体協の優秀選手表彰を受けています。

イ マスターズスイミング

平成11年の環太平洋マスターズ水泳選手権大会（パース）で鈴木雄二が3種目に優勝しました。平成12年のミュンヘン世界大会、平成16年のローマ世界大会でも入賞しており、平成21年、81歳の現在も個人メドレーで日本記録を出しています。

全国健康福祉祭（ねんりんピック）には磐田市からも数名の選手が出場していますが、大塚安孝が平成16年の群馬大会、平成18年の静岡大会で優勝しています。

福田屋内温水プールでは磐田カルチャーSCが、市の委託を受けて毎年マスターズの大会を開催しており、全国から大勢の参加者を集めています。

(2) 飛込み

磐田市出身の内藤姉妹の活躍は特筆すべきですが、所属が中学から大学まで磐田市外の学校でした。

姉の内藤未妃、妹の内藤有美の2人とも中学から大学、そして卒業後も飛込み競技を続け全国中学総体、高校総体、国体等で常に上位入賞をしています。

(3) 水球

水球は、平成3年の高校総体に備えて、磐田南高校のプールが水球仕様に造られているので、専ら磐田南高校が主流となっており、毎年夏には全国各地の高校が合宿にも来ています。

平成13年8月にはシニアカップ水球大会が開催され、平成14年9月にはスペインの水球選手を招聘しています。

磐田南高は平成10年、11年には東海高校総体で2連覇をしています。

長年顧問をされた丹生敬人の功績は非常に大で、その指導を受けた卒業生がまた各高校で水球競技を指導しています。

【磐田市の水泳】

磐田市内には磐田カルチャースイミングセンター(株)、JSS磐田スイミングスクール（ホイッスル磐田）、スポーツクラブアクトス磐田の3者のスイミングクラブがあります。

体育協会もNPO法人化され、施設管理を受託しているように、スイミングクラブも市の水泳施設の管理を受託しています。

市・学校・体協・民間スイミングクラブの間にあって水泳協会の事業や立場が不透明で、微妙になりつつあります。

各学校の水泳部やスイミングクラブも児童生徒の減少に伴い、厳しい運営を強いられています。

生涯スポーツとしてマスターズスイミングにも目を向け、引き続き水泳競技の振興に努めていきたいと思います。

文責 磐田市水泳協会
事務局長 寺田良博

